

(和文) デジタル貿易の諸相と課題 (英文) Some Aspects and Issue in Digital Trade			
研究報告希望部会	デジタル研究部会	(フリガナ) 氏名	コウノキミヒロ 河野公洋
キーワード	デジタル貿易・越境 EC・ デジタルコンテンツ貿易	ご所属	岐阜聖徳学園大学
報告時の言語	○日本語 英語 (どちらかに○印をつけてください)		
(和文要旨 40 字×5 行 200 字以内)			
<p>第四次産業革命 (Fourth Industrial Revolution, 4IR) という語を政府が使いはじめて 5 年ほどが経過した。世界で取引されるデータの量は飛躍的に拡大し、その処理スピードも格段に上昇している。インターネットや携帯電話の普及は、今や新興国を含め世界の隅々まで広がっており、デジタル市場は急速に拡大している。サイバー空間は、経済のみならず、政治、安全保障など世界の人々のあらゆる側面で不可欠な領域として認識されるようになった。越境 EC は、BtoB でも日本から中国へ 1 兆円を超えて久しい。デジタルコンテンツなどの貿易などを含めてその諸相と、現状の問題点を考察する。</p>			
(和文報告概要 40 字×40 行 1,600 字以内)			
<p>1 月 1 日、日米デジタル貿易協定締結後、にわかに注目を浴びたこの分野だが定義については、世界的に統一されたものは存在しないが、例えば OECD は、デジタル貿易とは、基本的には国境をまたぐデータの移転を前提としたものであり、消費者、企業、政府が関わる、電子的または物理的に配送される物品やサービスの貿易にかかる電子的取引を包含するものであるとの概念を紹介している。これに従うと、デジタル貿易は、インターネットを通じた物品の売買に加え、オンラインでの保険契約、ホテル予約や、音楽配信サービスなどオンラインプラットフォームを介して提供されるサービスなどを含む。一方で、例えば米国際貿易委員会 (USITC) は、デジタル貿易を、「製品やサービスの注文、生産、配送において、インターネットやインターネットをベースとした技術が特に重要な役割を担う貿易」と定義しており、越境 EC も加わって、その範囲はより広いように見受けられる。〔「拡大するデジタル貿易」『通商白書 2018』第 2 部第 1 章, p150-151. 引用〕</p> <p>これに加えて、インビジブルなデジタルコンテンツなどの国境を跨いだ取引も増大しており、その問題点も多い。拙報告では、デジタル貿易の様々な実情と、進化に伴う既存ビジネスとの様々な抵触部分について考察したい。</p>			